

---

# スレイヤーズいーすと

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スレイヤーズいーすと

### 【Nコード】

N45200

### 【作者名】

—

### 【あらすじ】

ゼファイリアに向かう途中の遺跡探索のさなか、リナとガウリイは異世界へと飛ばされたのだった。

## 盗賊いじめもほどほどに

鬱蒼とした森の中微かに漏れる木漏れ日が大地に埋もれた遺跡を照らし出していた。

「ほんとーにあつたわね・・・」

「ああ、ほんとにあつたなー」

あたしとガウリイぼーぜんとつばやく。

「でもどうするんだこれ？埋まつてるぞこの遺跡」

相変わらずこの男は、

何度かガウリイの前でもこの呪文使っているはずだが。

「大丈夫よ、ちょっと離れてて地精道<sup>ヘフェイス・ブリング</sup>」

サイラークからゼフィーリアへ道中、十日程たったある夜のこと、あたしは一人壊滅させた盗賊団から奪う戦利品を品定めしていた。

「うーん久しぶりの盗賊だから張り切って潰したけどしょぼいわね」

しばらく前までデーモンが大量に発生する事件があり事件そのものは解決したもののデーモン大量発生事件の影響で盗賊達もどうや

ら不景気だったようである。

品定めをしていくらしもないうち金貨やら宝石やらに混ざって巻物がほうり込みまれているのを見つけ手に取る。

「ん？巻物・・・なんだ地図か。しかしこんなあからさまに怪しい地図つかまされるような連中じゃ見入りが少ないのもしかたないか」

この世の中宝の地図と言われる物は大量に出回っているが本物などほとんどない。

第一この地図けっこう新しいぞ。

地図を足元に置き再び品定めを再開すると後ろからいきなり呆れたような声がかかる。

「また盗賊いじめかりナ」

「なっ・・・ガウリイいつの間に来たのっ」

「いや今着いたところだがまたこんなこととして・・・」

くっ・・・このパターンは長時間説教コースならば。

「いやあガウリイちょうどよかったわ目的地一次変更よ」

足元の地図を拾いガウリイに見せながら言う。

「目的地はカルマート公国で宝捜しよ。この辺りはレティディウス

公国の遺跡がけっこうあるから以外と当たりかも知れないしゼフィリアからそう外れてないしね」

しかしガウリイは困ったような顔して頭をかきながら、

「リナお前さつき思いきり怪しい地図って言ってなかったか？」

「言っていない」

はつきりきつぱり言い切るあたし、

「まあ遺跡が多い本当だからとりあえず行ってみましょう」

かくして

あたしの説教逃れから始まった宝捜しだった。

ショートソードに灯る淡い明かり（ライティング）の光りが闇に閉ざされた遺跡を照らし出す。

どうやらこの遺跡レティディウス時代よりも古い降魔戦争時代の研究施設のようだ。

しかしあんな怪しい地図が本物とは世の中奥が深いものである。

まあ本当にお宝が有るかどうかは別だが、けっこう期待できるかも知れない。

こういったところには今の技術では作れないマジックアイテムや魔導書があることがあるのだ。

そんなことをつらつらと考えながら探索をしているとガウリイが何か見つけたのか声をあげる。

「おいリナこっち見て見るよ。」

ガウリイの声のするほうへ向かうとそこはこれまでの部屋と明らかに違っていた。

ちよつとした家が二、三件入るような部屋の天井から周囲の壁、床まで部屋中央の魔法陣に向かってクリスタル柱を延ばしている。

「・・・ふうん多分この遺跡の実験施設かしら」

ヴイイイイイイ

魔法陣を調べているさなか金属を振動させるような音がしたかと思うと、周囲の景色が歪み音がフツと途切れた時、目の前にはクリスタル柱に覆われた遺跡ではなくどこまでも広がる蒼い空。

しかしなによりも先に気になったのは魔力の濃さ、かつてサイラ―グに生み出された異世界ほどではないにしろかなり濃い。

「ガウリイ、どうやら魔族にご招待されちゃったみたいね？」

「ああ、そうみたいだなリナ」

ガウリイも大気に溶けた異様な魔の濃さに気付いているのだろう。

あたしとガウリイは周囲をしばらく警戒するが、

「おい、リナどうやら敵さんはいないみたいだぞ」

「うーん、もしかしたら魔族じゃなくてさっきの魔法陣のせいかも知れないわね」

「ところでガウリイそれどうする？」

ガウリイの持つ剣、残妖剣には魔が濃い程切れ味を増す特性があり、切れ味を鈍らせる呪文を書いて貰っていたのだがそれを上回ったようで鋼鉄製の鞘が真つ二つになっている。

「やっぱりこのまま持っていくしか無いんじゃないか？どうせ切れちまうだろうし」

「それもそうか。それじゃとりあえず、ここがどういった所か見て回るわよ！」

盗賊いじめもほどほどに（後書き）

異世界に迷いこんだリナとガウリイ

はたして元の世界に帰ることができるのか？

と言うか抜き身の剣を持っているとか、めっちゃめっちゃ怪しいぞガウリイ。

次回スレイヤーズⅡすと第二話「向日葵」

ニコニコ動画のスレイヤーズNEXTを見ながらまで！



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4520o/>

---

スレイヤーズいーすと

2011年1月13日03時24分発行